

CT検査

CT：コンピューター断層撮影(computed tomography)
放射線などを利用して物体を走査しコンピュータを用いて処理することで、人体の断面像を得る検査法です。

単純CT

造影剤を使用せずに撮影を行うものを単純CT (plain CT)
脳内出血、組織の浮腫、骨の形態異常、肺の形態などは、造影剤を用いなくても（あるいは用いない方が）十分に観察できます。臓器によっては腫瘍の存在をはっきり視認できないことも多いですが、周囲の組織の圧排などから推測できることもあります。

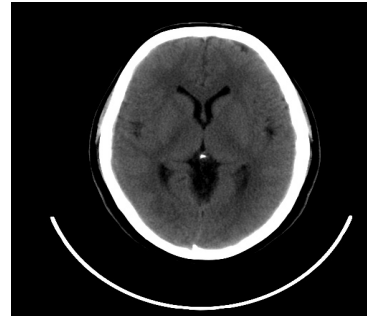
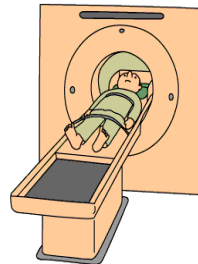
造影CT

単純CTに対して、X線吸収率の高いヨード造影剤を血管内（通常は末梢の静脈内）に注射してから撮影を行うものを造影CT (contrast enhanced CT; CECT)

血管内や、血流が豊富な組織が濃く（白く）描出され、画像のコントラストが明瞭になります。多くの腫瘍は周囲の正常組織より血流が豊富であるため、観察しやすくなります。一部の腫瘍や、虚血部分は造影されない（黒く描出される）ため、これによっても病変を診断できます。単独で、または単純CTと併用して診断に用いられます。

(検査時間5～20分)

◎ 検査に必要な金額
約3割で¥4,437円



↑ 頭部CT単純



↑ 胸部CT単純



↑ 腹部CT単純



↑ 腹部CT造影